

日本労働年鑑 第59集 1989年版
The Labour Year Book of Japan 1989

第四部 労働組合と政治・社会運動

III 政党の動向

2 選挙

一〇県の知事選挙、福島以外現職すべて再選

八八年中に実施された知事選挙は、福島、栃木、群馬、埼玉、長野、富山、三重、奈良、岡山、山口の一〇県である。このうち現職が引退して前自民党参院議員が当選した福島以外は、すべて現職が再選された。

推薦・支持政党別にみると、自民党公認が一県、自・公・民推薦が二県、自・社・公・民推薦が四県、これに社民連が加わったもの一県、社・民・共・社民連推薦が埼玉の一県となっている。対決パターンとしては、保守または保守・中道対共産の形は変わらず、革新・中道対保守の一騎打ちとなった埼玉県と、自民党が候補者調整に失敗し、保守と保革相乗り候補が激突した福島県が目されたが、前者は社会・共産などの推薦を受けた現職の畑和候補が、後者は自民党参院議員から転身した佐藤栄佐久候補が当選した。

投票率は、福島と長野を除くと六割に満たず、群馬、栃木は過去最低だった(第58表参照)。

市長選、一二九市でおこなわれ、七〇%が保守・中道推薦

八八年中に実施された市長選挙は、一二九市でおこなわれた。当選者の所属党派は、自民党公認の三人(青森県十和田、富山県黒部、愛媛県北条)を除いて一二六人が無所属である。

政党の支持・推薦関係からみた市長選の連合パターンは、第59表のとおりだが、無所属のうち一番多いのが保守・中道型の四一、ついで保守・中道・革新相乗り型の三二で、これだけで支持・推薦を受けた無所属全体の約七〇%を占めている。これにたいし革新連合型は二、中道連合四、中道・革新六ときわめて少なくなっている。

政党の組み合わせでは、自・公・民連合が三一、これに社会党が加わった自・社・公・民連合が一二と飛び抜けて多く、これに社民連が加わったものも六となっており、この三つの型で支持・推薦を受けた無所属全体の半分以上にのぼっている。

なお、無投票は三〇で、全体の二三%であった。

日本労働年鑑 第59集

発行 1989年6月26日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2000年2月22日公開開始